

# 担い手の育成と優良農地の確保に向けて

## 御所市農業委員会

### 1. 御所市の概要

御所市は、大和平野地域の西南端に位置し、市域面積は約6,000haである。大阪府と接する西部には標高1,000m級の金剛山やツツジの名所として知られる葛城山がそびえ、南部から東南部にかけては標高150～350mの丘陵地が広がり、北部から中央部には、平坦地が開け、農地や家屋の多くがここに集積しています。市域内には、近鉄南大阪線、JR和歌山線の鉄道と、国道24号線、165号線をはじめとした道路網が整備され、京奈和自動車道も近年開通を目指し建設しており、奈良市、大阪中心部へも約1時間で到達することができる大都市近郊都市としての性格を有しています。

しかし、本市の人口は4万人近い規模を以前は推移していましたが、近年減少傾向にあり平成21年現在約31,000人となっています。また65歳以上の高齢者人口は、平成12年には約22%が平成21年度には約30%と日に日に高齢化率は上昇している現状です。

農業の取り巻く環境については、耕地面積は、約889haでありそのうち約90%が水田です。また農業者は、零細でかつ兼業化、高齢化が進んでいます。

米の品種としては、ヒノヒカリが大半です。(その中においても葛城山麓地域の一部で収穫されている、はんだ米はとくに美味しく人気の高い商品となっています。)

西部の葛城山麓地域では、約20年の歳月をかけ小さく点在していた農地を集約して、ほ場整備事業を行い農業基盤整備が行われました。



## 2. 農業委員会の取り組み

### ①担い手不足の解消

平成19年度に御所市担い手育成総合支援協議会をJAならけん、奈良県中部農林振興事務所、御所市と共に設立し、新規就農者の受け入れや認定農業者の育成、集落営農組織の設立支援を実施しています。

当市においては、集落営農と呼べる組織は存在していませんでしたが、平成20年度に旧秋津村全域を活動地域として18戸の農業者が中心に秋津集落営農組織が設立されました。この集落営農組織では、耕作放棄地等を利用して新規作物の試験作付け、野菜等の作付けに取り組んでいます。また、平成21年度には、市の西部に位置する旧葛城村の一角で葛城西集落営農組織、市の南東部で旧掖上村の一角で上方集落営農組織の設立に向け支援を行っております。

新規就農者の受け入れと育成については、毎年4、5名程度の方から相談を受けていましたが、そのほとんどが兼業農家であり家庭菜園の少し大きい程度を求める内容でした。しかしここ2、3年の間に4、5名の主を農業とした若者も参入しています。この新規就農者は、有機野菜やエコファーマー等により野菜を収穫しています。また耕作意欲も高く毎年少しずつ耕作面積も増やしつつあります。



### ②耕作放棄地対策について

平成20年度におきまして、御所市担い手育成総合支援協議会のメンバーと共に平成20年10月から12月にかけて3ヶ月に渡り2、3人体制で市内全域を調査しました。その結果、84haの放棄地が判明という現実を確認しました。この状況の解決を図るため平成21年5月には同メンバーにより御所市地域耕作放棄地対策協議会を設立。平成20年度の調査における耕作放棄地所有者（約1,000人）に意向調査によるアンケートを実施しました。回収率47.85%（456人）で、耕作出来ない一番の理由は、高齢化と耕作者の病気、死亡となりました。意向調査において他人に貸したい意向の方が一部おられましたので貸借のあっせんをおこなっています。